



# BUSINESS REPORT

第203期 報告書

2022年4月1日～2023年3月31日

株主の皆様へ

P.1

CLOSE-UP

P.3

連結決算の概要

P.5

株主様へのご案内

P.6



## 東武グループの概況について ご説明いたします。



取締役会長 根津 嘉 澄

株主の皆様には、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当期のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限措置が緩和される中、感染拡大防止をはかりながら社会経済活動が進められ、緩やかな持ち直しの動きが見られました。一方、緊迫する海外情勢の長期化や為替の急激な変動のほか、資源価格や物価の上昇、製品供給の制約は続いております。

当社グループにおきましては、「中期的な事業計画」を策定のうえ、事業構造改革等を通じて、強靱な経

取締役社長 都 筑 豊

営体質の構築を進めました。また、感染症対策を継続しながら需要回復を積極的に取り込む施策を実施するとともに、グループ共通ポイント「TOBU POINT（略称“トブポ”）」をはじめとしたデジタル技術を活用したグループ収益の拡大策を強化いたしました。

当期の連結業績は、営業収益は6,147億51百万円（前期比21.5%増）、営業利益は566億88百万円（前期比129.2%増）、経常利益は548億15百万円（前期比100.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は291億79百万円（前期比116.9%増）となりました。

当社は、長期にわたる経営基盤の拡充のため、財務健全性に配慮しつつ、業績と経営環境を総合的に勘案しながら、安定配当を継続することを基本方針としております。

当期は、新型コロナウイルスや資源価格等の上昇による影響により引き続き厳しい事業環境であったものの、需要回復を積極的に取り込む施策の実施により、利益が回復していることから、当期の期末配当は

1株当たり15円（中間配当金15円（うち普通配当10円、記念配当5円）を加えた年間配当金は1株当たり30円）に決定させていただきました。

なお、2023年度の年間配当につきましては、中期的な事業計画の推進による業績や経営環境等を総合的に勘案し、普通配当を5円増額することにより1株当たり30円（中間配当金15円と期末配当金15円）を予定しております。

### 新たな経営体制への移行についてご報告申し上げます

2023年6月23日に開催いたしました第203期定時株主総会及びその後の取締役会において、代表取締役の就任及び異動（社長交代）を決議いたしました。

#### ◆◆◆ 新会長メッセージ ◆◆◆

私が社長に就任いたしましたから、本年で丸24年を迎えます。このタイミングで社長交代を決めましたのは、昨年11月に創立125周年という節目を迎えることが出来たということもありますが、それ以外にも、会社の経営において、いくつかの区切りを迎えることが出来たとの思いから、今が社長交代の好機との考えに至りました。

そして、引き続き、当社が持続的成長を遂げていくためには、アフターコロナという新しい時代の会社の次なるステージにおいて、既存事業のみならず、新たな事業の育成等、新しい視点と判断で事業を推進する必要があると考えたことから、今般、新しい経営体制に移行することを決断いたしました。

最後になりますが、社長在任中の24年間、株主の皆様には大変お世話になりました。新体制でスタートする東武鉄道にも、引き続き、変わらぬご支援をいただければと思います。

長い間、ありがとうございました。



#### ◆◆◆ 新社長メッセージ ◆◆◆

この度、根津よりたすきを引き継ぐこととなりました。

重責ではございますが、自身のこれまでの経験を最大限活かしながら、新しい体制をリードしてまいりたいと思います。

安全は事業の根幹であることを前提に、これまで根津のもとで会社が進めてまいりました既存事業の深耕をはかると共に、アフターコロナという新しい時代における、次なる成長ステージに向けた新たな事業領域の拡大を、スピード感をもって具現化していくことで、株主の皆様の信頼と期待に応えられるよう、全力で取り組んでまいります。

どうぞよろしくお願いたします。



# CLOSE-UP

# 東武グループ 24年の歩み



東武グループをけん引してきた根津会長が社長に在任した24年の東武グループの歩みや出来事を振り返ります。

1999年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2011年	2012年	2013年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年																	
6月	3月	1月	10月	2月	3月	8月	9月	3月	3月	1月	6月	3月	7月	4月	5月	7月	9月	10月	4月	8月	10月	3月	6月	7月	11月	10月	3月	4月	3月	6月	7月							
根津社長就任	伊勢崎線越谷～北越谷間1.7kmの高架複々線が完成 これにより、民鉄では最長となる北千住～北越谷間(18.9km)の複々線が誕生	インターネット・携帯電話による日光線特急・急行の予約開始 (現東武ネット会員サービス、特急券インターネット購入・予約サービス)	中期経営計画「東武グループ再構築プラン」を策定	東武鉄道のバス事業分社化に伴い東武バスが営業を開始	運行情報メールの配信サービスを開始	伊勢崎線・日光線、営団(現東京メトロ)半蔵門線、東急田園都市線 (南栗橋～押上～渋谷～中央林間間)で相互直通運転を開始(2006年3月入喜まで延長)	新桐生駅で東武鉄道初のパーク・アンド・ライドサービスを開始	東武カードビジネスが「東武グループポイントサービス」を開始	竹ノ塚駅構内第37号踏切道にて死傷事故が発生 以降、安全推進部の創設、安全の日の制定など安全を最優先する組織体制の再構築を推進	「AI-ZUMANTOエクスプレス号」が鬼怒川温泉～会津若松(一部、喜多方間で直通運転を開始(2012年3月東武日光まで直通開始))	JR新宿～東武日光、鬼怒川温泉間でJR東日本と特急列車の相互直通運転を開始	新タワー(東京スカイツリー)の建設地が墨田・台東エリア押上・業平橋地区に決定	東京スカイツリーが世界一高いタワーとしてギネス世界記録™に認定	お子さま向けウェブサイト「TOBU BomBom Kids(とぶボンボキッズ)」を開設 (2019年3月TOBU Kids(とぶキッズ)に名称変更)	東上線、東京メトロ副都心線(森林公園～和光市～渋谷間)で相互直通運転を開始・座席定員制列車(2019年3月より座席指定制に変更「Tライナー」)の運転を開始	障がい者雇用の促進を目的にシンフォニア東武を設立 (2007年11月特例子会社の認定を取得)	浅草駅等で「TOBU FREE Wi-Fi」の提供を開始	東武トラベルとトップアールが合併し、新会社東武トップアールが発足	東武エネルギーマネジメントが葛生駅南側土地において 初の大規模太陽光発電所(メガソーラー)で発電を開始	台湾台北市にインバウンド戦略部台北支社(現観光事業推進部台北事務所)を開設 (2018年10月上海連絡事務所を開設)	金谷ホテルが東武グループに加入	債券格付けが「A」へ格上げ(R&I)	500系「リバイテ」が就役(特急リバイテ会津として野岩鉄道・会津鉄道へ乗り入れ)	鬼怒川線下今市～鬼怒川温泉間においてSL大樹の運転を開始 ③ (2020年10月日光線下今市～東武日光間においてSL大樹ふたらの運転を開始)	関越交通が「客貨混載」を開始	2018年度決算において創業以来最高益(連結経常利益)を記録	東武線、東京メトロ日比谷線相互直通の座席指定列車「Tライナー」の運転を開始	浅草～東京スカイツリータウン間に「すみだりパークウォーク」(東京ミズマチ)が開業	「ザ・リッツ・カールトン日光」が開業 ④	東武グループ共通ポイント「TOBU POINT」のサービスを開始	TOBU POINTの新サービス「トポマイル」のサービスを開始	国内初の環境配慮型・観光Mass「NIKKO Mass」のサービスを開始	東武スカイツリーライン竹ノ塚駅付近(西新井～谷塚間)上下緩行線高架区間の使用開始 により、第37号・38号踏切道を廃止	東京証券取引所の市場区分の見直しにより市場第一部からプライム市場へ移行	日光・鬼怒川エリアで実質再生可能エネルギー100%の電車運行を開始	東上線、東京メトロ副都心線、東急東横線・新横浜線、相鉄新横浜線・本線、いずみ野線 (小川町～和光市～渋谷～日吉～新横浜～西谷～海老名・湘南台間)で直通運転を開始	根津会長・都筑社長就任	N100系「スーパーシアX」が就役予定



2022年度 決算のポイント

**運輸事業**

行動制限がないことによる行楽利用の回復や、引き続き固定費の削減に努めたこと等により、営業収益は1,891億89百万円(前期比9.1%増)、営業利益は193億81百万円(前期比64.7%増)となりました。

**レジャー事業**

前期の落ち込みからの回復や旅行業における収益の拡大により、営業収益は1,883億54百万円(前期比83.6%増)、営業利益は194億70百万円(前期は10億72百万円の営業損失)となりました。

**不動産事業**

マンションの販売戸数の縮小等により、営業収益は609億15百万円(前期比2.6%減)となり、電気料金の単価増等により、営業利益は136億81百万円(前期比12.3%減)となりました。

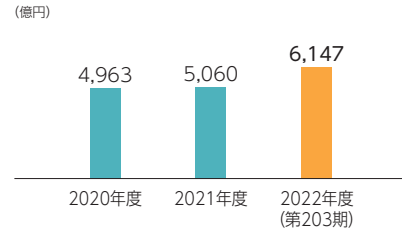
**流通事業**

百貨店業における前期の臨時休業による落ち込みからの回復等により、営業収益は1,634億38百万円(前期比6.0%増)、営業利益は26億2百万円(前期は40億22百万円の営業損失)となりました。

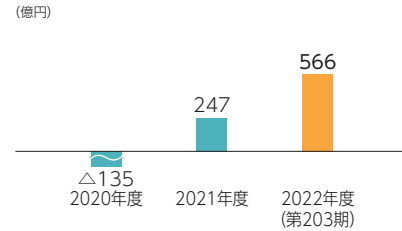
**その他事業**

営業収益は819億2百万円(前期比4.4%増)となったものの、資材価格の高騰等により、営業利益は26億46百万円(前期比22.7%減)となりました。

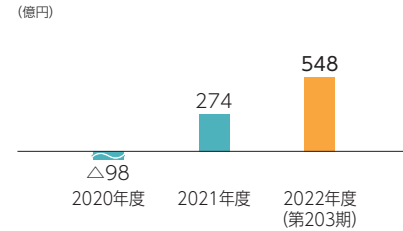
**営業収益**



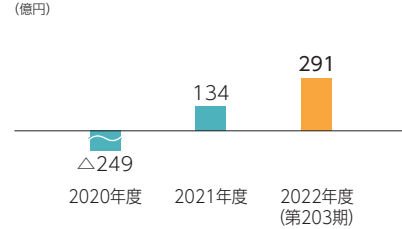
**営業利益**



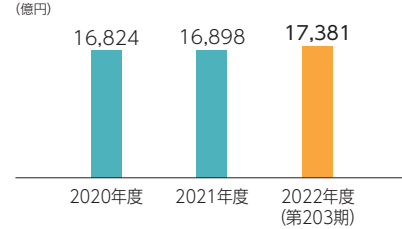
**経常利益**



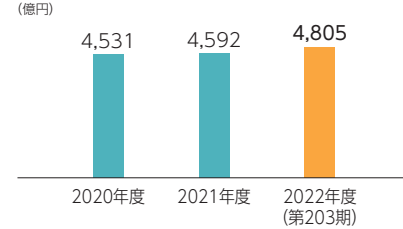
**親会社株主に帰属する当期純利益**



**総資産**



**純資産**



詳しくはこちら ▶



当社グループでは、「事業構造改革と事業推進体制の見直し」の一環として、グループ会社の機能強化と効率化を目的に連結子会社を再編したことに伴い、当期より、セグメントの区分を変更しております。これにより、前期比較については、変更後の区分にもとづいて記載しております。

株主優待乗車証

株式数	乗車証の種類	発行枚数	
		9月末(基準日)	3月末(基準日)
100株以上 200株未満	回数券*1	—	2枚
200株以上 600株未満	回数券	2枚	2枚
600株以上 1,000株未満	回数券	6枚	6枚
1,000株以上 2,000株未満	回数券	10枚	10枚
2,000株以上 3,000株未満	回数券	20枚	20枚
3,000株以上 4,000株未満	回数券	30枚	30枚
4,000株以上 5,000株未満	回数券	40枚	40枚
5,000株以上 5,800株未満	回数券	50枚	50枚
5,800株以上 11,600株未満	定期券*2	1枚	1枚
11,600株以上	定期券 回数券	1枚 + 50枚	1枚 + 50枚

1,000株以上を3年間以上継続して保有いただいている株主様へのご優待\*3 (半年につき)

回数券 4枚

回数券 10枚

※1 1枚1乗車有効の電車全線優待乗車証(回数券式)  
 ※2 電車全線優待乗車証(定期券式)  
 ※3 当社の株主名簿において、過去3年間の全ての基準日(当該基準日を含む直近7回の基準日(3月31日、9月30日))に1,000株以上の株式を継続して保有し、株主番号が継続して同一である株主様に対し、過去3年間の基準日に保有していた最小株式数に応じて追加発行いたします。

株主ご優待券

株式数	発行数	
	9月末(基準日)	3月末(基準日)
100株以上 200株未満	—	1冊
200株以上	1冊	1冊

東武グループ各施設等でご利用いただけます。(一例)

	<b>割引</b> 東武ホテルグループ	発行枚数 (半年につき)
	宿泊料金の割引 公式料金の30%割引	5枚
	飲食代金の割引 10%割引	5枚
	<b>割引</b> 東武トップツアーズ	発行枚数 (半年につき)
	ツアー代金の割引 東武トップツアーズ 企画・実施商品FEEL・ 東武旅倶楽部	2枚
	<b>割引</b> 東武百貨店 (池袋・船橋・宇都宮・大田原・栃木市役所)	発行枚数 (半年につき)
	お買物代金の割引 1,000円以上につき 5%割引	8枚

※株主ご優待券のご利用にあたりましては、お手元の株主ご優待券の記載事項をご確認ください。  
 ※株主優待乗車証・株主ご優待券の有効期限につきましては、原則、6月発行分(資格確定3月31日)は12月末まで、12月発行分(資格確定9月30日)は翌年6月末までです。

**「株主ご優待券」のお取扱いについて**

- 東武スポーツクラブ
- 東武藤が丘カントリー倶楽部
- 星の宮カントリー倶楽部
- 宮の森カントリー倶楽部
- 朝霞パブリックゴルフ場

エネルギー価格等の高騰により、優待内容の変更をさせていただきます。

株主様向けイベントのご報告

事業内容へのご理解を一層深めていただくため、2023年2月18日(土)、ダイヤグラム作成教室を開催し、株主様及び同伴者様に参加いただきました。



鉄道事業の説明      ダイヤグラムの説明      ダイヤグラム作成に取り組む株主様

よく考えられてダイヤグラムが作られていることに感心しました。

会社概要 (2023年3月31日現在)

商号 東武鉄道株式会社  
 設立年月日 1897年11月1日  
 本店所在地 東京都墨田区  
 押上一丁目1番2号  
 資本金 1,021億3,597万1,747円  
 従業員数 3,346名  
 発行可能株式総数 4億株  
 発行済株式の総数 2億9,815万5,421株  
 株主数 6万7,299名  
 事業内容 ① 鉄道事業  
 ② 不動産事業  
 ③ その他の事業

役員 (2023年6月23日現在)

【取締役】

代表取締役会長 根津 嘉澄  
 代表取締役社長 都筑 豊  
 取締役 横田 芳美 重田 敦史  
 鈴木 孝郎 柴田 光義  
 安藤 隆春 矢ヶ崎 紀子  
 柳 正憲

【監査役】

常勤監査役 杉山 知也 吉田 辰雄  
 監査役 茂木 友三郎 福田 修二  
 林 信秀

【執行役員】

社長執行役員 都筑 豊  
 常務執行役員 横田 芳美 山本 勉  
 重田 敦史 鈴木 孝郎  
 岩澤 貞裕  
 執行役員 吉野 利哉 田邊 哲也  
 福原 秀之 眞島 朗  
 高月 京子 中山 康二  
 志村 健 衣川 裕司  
 伊藤 克俊 岩瀬 豊  
 青柳 健司 前田 隆平

株主メモ 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会 毎年6月  
 配当金受領株主確定日 期末配当金 毎年3月31日／中間配当金 毎年9月30日

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社  
 公告の方法 電子公告  
<https://www.tobu.co.jp/koukoku/>

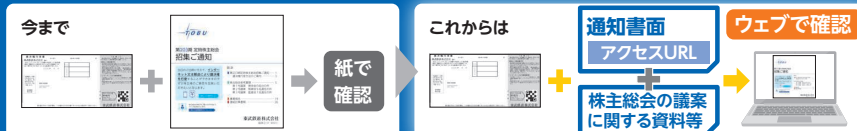
定時株主総会に関するご報告

2023年6月23日開催の当社第203期定時株主総会の決議結果につきましては、当社ウェブサイトに掲載しております。



<https://www.tobu.co.jp/ir/meeting/>

会社法改正により 株主総会資料がウェブ化されました



主な変更点

- 当社ウェブサイトへのアクセス方法等を記載した招集ご通知をお送りします。
  - 株主総会資料の全文は当社ウェブサイトへアクセスすることで確認できます。
- ※ 株主優待や配当金関係書類は今までどおりお送りします。

本制度について詳しくはこちら

<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/kaisyahou>



東武鉄道株式会社

〒131-8522 東京都墨田区押上二丁目18番12号



※ 「東京スカイツリー」及び「東京スカイツリータウン」は、東武鉄道㈱及び東武タワースカイツリー㈱の登録商標です。また、「東京ミズマツ」及び「すみだパーワーク」は、東武鉄道の登録商標です。

この印刷物は、視認性が高く読みやすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。また、FSC®森林認証紙を用いて「森林資源の保全」に、植物油インキを用いて「大気保全」に配慮しています。くわえて印刷に使用した電力(1,285kwh)は、バイオマス発電によるグリーン電力によりつつととも、環境に配慮した資材と工場で印刷しています。なお、印刷用の紙に再生できますので、不要になった際は古紙回収リサイクルにお出ください。